

“解決すべき社会課題と当団体のミッション”

“解決すべき課題”

- こどもの貧困(体験や経験の貧困を含む),
- 子どもや家庭の社会的孤立,
- こども食堂等の運営基盤の脆弱さ(経営や関係機関との連携を含む),
- 特にコロナ禍において上記の課題が深刻化,
- 支援を希望する企業等の存在はあるが, これらの善意が生かされない, など

“当団体のミッション”

- こどもが安心して通える地域の居場所を充足させ, 社会的孤立を軽減する。
- こどもを含む多様な世代の食生活をめぐる問題の軽減, 改善を目指す。
- 自立した食習慣を身に着けることができるよう, こどもの成長を支援する。
- こどもだけではなく, 居場所を通じてその家族や地域住民にも働きかけ, 地域で子どもを見守り, 育てていく環境を整備する。

“子どもの居場所づくり応援事業（資金分配団体）のロジックモデル” (Jul30.2020)

中長期アウトカム

地域全体で子どもを育てられるような地域になる

★非資金的支援（資金分配団体の）戦略は**全国規模の企業に寄付を働きかけるとともに、資金的支援（実行団体）の戦略をサポートするもの**

短期アウトカム

支援地域において多様な寄付がシェアされ、こども食堂等居場所の運営が安定する

企業が食品を提供できるようになる

実行団体の支援地域において、寄付食材をこども食堂にシェアする仕組みが整う

企業（食品を提供する側）が「誰が何を欲しがっているのか」を理解できる

企業からの寄付が受けられる体制があることを認知してもらう

受益者（こども等）に安全な食品が届けられるようになる

実行団体を通じて各地のこども食堂に食品を分配できるようになる

活動

- ・こども食堂等の現場が必要としている食品類を把握して企業等に伝える
- ・企業との学習会を開催する
- ・全国規模の企業からの支援を集約する

- ・各企業からの寄付申し出や斡旋の一連の流れを見える化し発信する
- ・これまで受けた寄付食品を概観できるような資料を作成したり、広報する
- ・企業との学習会を開催する

- ・食品取扱のルール・ガイドラインを整備する
- ・実行団体・シェア拠点に備蓄できる機能（要冷凍・冷蔵を含む）をつくる
- ・（冷凍・冷蔵を含む）備品整備の助成制度（仕組み）を整える

- ・ロジ拠点・ハブ拠点をつなぐネットワークを構築する
- ・実行団体と連携し食品寄付の分配量を調整・分配する
- ・コーディネーター（企業との交渉・調整）ができる人材を育てる

“子どもの居場所づくり応援事業（実行団体）のロジックモデル” (Jul30.2020)

中長期アウトカム

地域全体で子どもを育てられるような地域になる

多様な寄付がシェアされ、こども食堂等居場所の運営が安定する

短期アウトカム

生鮮食品をもらえるようになる

こども食堂等居場所が食材をシェアできるようになる

冷蔵・冷凍設備が整う

保管拠点で受け取れる食品量を把握している

衛生管理の知識を持っている人がいる

食材を共有するためのシェアできる拠点ができる

食材を運ぶ協力者・機関を確保できるようになる

こども食堂等居場所と連絡を取り合えるようになる

各シェア拠点が近隣の団体とつながる

想定される活動（例）

・冷蔵・冷凍設備を設置できる居場所を見つける

・受取り拠点ごとの食品管理簿を作成し、とりまとめを行う
・各シェア拠点の貯蔵量を調べて整理する

・衛生管理マニュアルの作成し、各拠点に共有する。
・保健所に相談し、必要な知識の伝播を行う。

・冷蔵・冷凍設備の設置
・シェアした団体に食材を使う目的を理解してもらえよう、主旨を説明する
・関心のある団体向けに説明会を行う

・シェア拠点まで食材を運ぶため運搬方法を整備する
・配送や倉庫の一時留めに協力してくれる地元企業を探す

・こども食堂等居場所にSNS等を通じて食材提供の情報を発信する

・どこの支部がどんな団体と協力できそうか一緒に考える
・近隣団体に活動の取組を説明する